

令和3年度 徳島県立鴨島支援学校「学力向上実行プラン」

徳島県立鴨島支援学校長 森本 真由美

1 学力向上検討委員会構成

学 力 向 上 検 討 委 員		
	職名・校務等担当名	氏名
管理職	校長 教頭	森本 真由美 掛田 千津子
学力向上推進員	教務課長	中 史治
委員	小学部長 中・高等部長 小学部教務主任 中・高等部教務主任	藤原 美咲 近藤 美和子 北條 佳子 上田 利沙

2 学力・学習状況における現状分析, 目標等

【3つの視点】

- (1) 基礎的・基本的な知識・技能の習得
- (2) 知識・技能を活用して課題を解決するために必要な思考力・判断力・表現力等の育成
- (3) 主体的に学習に取り組む態度の育成

(小 学 部 ) 幼 児 児 童 生 徒 の 状 況			
よさ	昨年度は、実態の違いがあるものの、児童一人一人の特性や能力に応じた支援に取り組み、それぞれの学びを実現し、自ら課題解決に向けて意欲的に学習しようとする姿勢を身につけ、持てる力を発揮することができた。また、児童の主体的な取組を児童自らホームページに掲載したり、作品展で発表したり、地域社会に向けて発信したりすることで、学校内外からの評価を得て、自己実現につながる学習によりいっそう意欲的に取り組むことができている。	課題	児童数が少なく、児童一人一人の実態に違いがあるため、集団を形成しての学習活動が難しい。さらにコロナ禍で、学部を超えた集団形成や交流及び共同学習を実施できず、以前に実施していた児童生徒間の関わりや集団での活動によるコミュニケーション能力や社会性を伸ばすことが難しくなっている。また、障がいの特性上子ども同士の関わりに抵抗のある児童もおり、教員との関わりが多いという現状がある。
	具体的目標(目指す子どもの姿)	成果指標	達成状況
	キャリア・パスポートの作成を通して今の自分自身や生活を振り返り、自分の現在や将来をよりよいものにしようと、それぞれの課題に主体的に取り組む、自信をもって学校生活を送ることができる。	児童と教員が協力して「キャリア・パスポート」作成率を100パーセントとする。	キャリアパスポートについて、1学期にNo.1(表面)、3学期にNo.2(裏面)を児童全員作成することができた。
			----- 評価 A

具体的方策(教員の取組)	取組指標	取組状況
1学期中に児童生徒全員のキャリア・パスポートを作成する。	1学期にNo.1(表面), 3学期にNo.2(裏面)を児童生徒全員作成することができた。	教員との作成はもとより, 保護者にも協力を得ることで, 家庭とより連携した支援を行うことができた。
年度始めに進路希望調査を実施するとともに, 保護者との懇談を年2回以上実施し, 保護者のニーズを把握する。	進路希望調査及び年2回以上保護者との懇談や電話での情報交換を実施し, 保護者のニーズの把握を行った。	学習参観日の中止等で保護者が来校しての懇談が難しいこともあったが, 別日の設定や電話での情報交換を適宜行うことで, 保護者のニーズを適切に把握することができた。
個別の教育支援計画(様式4関係機関を含む支援計画)を, 児童生徒が利用している放課後等デイサービス事業所に提供したり, 就業体験先の施設等へ情報提供したりすることで, 教育と福祉の連携を密にする。	個別の教育支援計画(様式4)の提供と情報及び意見交換をしたことで, 共通理解のもと児童生徒の支援を進めることができた。	事業所からは「学校の様子を知ることで支援の参考になる。」等の意見を頂くとともに, 授業見学の実施につながった事業所もあった。
* 中間期の見直し		
達成状況を踏まえた改善事項		
目標を達成できたので, 特になし		

(中・高等部) 幼児児童生徒の状況		
よさ	昨年度から取り組んでいる遠隔による校外の人々との交流学习において, 最初はタブレットの画面を通してのやりとりに戸惑うことが多かったが, 回数を重ねることで少しずつ慣れ, 意欲的に活動することができた。	課題
		校外の人と関わり, 様々な経験を積むことは, 生徒にとって意義がある。今後も遠隔による交流学习を続けていくが, 生徒の障がいが多様化, 重複化しているため, 個々に応じた発信力を高めて行くことが必要である。
具体的目標(目指す子どもの姿)	成果指標	達成状況
校外の人々との遠隔による交流学习を通じて, 人と関わる経験の幅が広がり, 社会性が伸びる。	目標に対する達成状況について, 教員にアンケートをとり, 「達成できた」, 「どちらかという達成できた」の評価を合わせて70%以上で達成とする。	アンケートの結果, 目標を「達成できた」, 「どちらかという達成できた」の評価を合わせると97%であったので, 目標は達成できた。
		----- 評価        A
具体的方策(教員の取組)	取組指標	取組状況
2ヶ月に1回活動を実施し, 振り返りと改善を行いながら, 次時に生かしていく。	遠隔による学習活動(学校と吉野川市役所を繋いで)を年間5回以上実施する。	吉野川市役所6回, 札所2回の遠隔による学習活動を実施することができた。
特別支援教育学会分科会の発表に向けて, 指導助言を受けたことを内容に盛り込みながら資料作成に取り組んでいくようにする。	助言の先生による指導を学期に1回受ける。	年間計4回指導を受けることができた。
* 中間期の見直し		
達成状況を踏まえた改善事項		
目標を達成できたので, 特になし		